

大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大 学 名	○長崎大学、福島県立医科大学
整理番号	AR05
事 業 名	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、放射線災害を経験した日露において、災害・被ばく医療科学分野において両国の架け橋となる人材やリーダー育成を目的として、日本側2大学、ロシア側5大学等機関により実施されたものである。長崎大学・福島県立医科大学の「災害・被ばく医療科学共同専攻」を核にした本事業では、ロシアの大学から引率教員の招へい、ロシア語の堪能な教員や在日ロシア人教員の採用等を進め、組織や修学体制の違いを乗り越えた。 事業展開では、コロナ禍においても計画どおりダブル・ディグリー・プログラムの準備を進め、日露間の教育制度の違いを克服して、最終年度にプログラムを開始することができた点は高く評価できる。学生交流数は派遣・受入ともに目標値に達しており、また、日本におけるロシア出身教員の採用や、受入学生に対する長崎・福島両地での滞在支援等は、プログラム実施への熱意の表れとして評価できる。 また、双方の学生が英語で学ぶプログラムの構築を目指し、ロシアの北西医科大学に対し2023年から開設予定の英語による修士課程（公衆衛生）の実現に向け、積極的な働きかけを行ったことも、高く評価できる。 その一方で、ダブル・ディグリー・プログラムへの参加者が、事後評価実施時点で北西医科大学からの1名に留まっている点は残念である。また、国際機関でのインターンシップが計画どおりには実施されておらず、単位認定の状況が不明である。これらについては、今後より一層の可視化が望まれる。 最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	